

# 「多元的共生をめざす社会を支える

## コミュニケーション

今回から「多元的共生社会における生涯学習を考える」と新たなシリーズになった

第1回が、12月4日(日)、東京大学の福武ホールにて開催された。講師の武田信子氏は、世界でも有数の多元的共生社会とされるカナダのトロントにて、カナダ屈指のコミュニケーションワーカーたちとの交流や議論を通して、コミュニケーションの理論と実践を学んできた。多元的共生社会とは、多様な人種や文化、弱者を含むさまざまな社会的立場の人達が、価値観の違いを尊重しつつ納得を得て進む道を決めていく社会、あるいはそうせざるを得ない社会だ。

### ■ グループ分けで「南北問題」を体感

武田氏が最初に行ったのは、口角を上げて笑顔を作る練習。留学中に「君は日本人なのに笑顔でハローが言えるんだね」と言われて驚いた。日本人は軽やかに挨拶できないと思われているのだ。多文化・多文化の社会において、笑顔で挨拶することは、自分にはあなたに敵意はありませんよというコミュニケーションに欠かせない合図なのだ。

通常の講演スタイルで参加者が座席についていたのはここまで、5分だけだった。その後は5人ずつのグループに別れての交流、議論、シミュレーションなどを各々

でテンポのよい講義となった。

5人組を作る際、男女混合・同じ都道府県出身者は2人までという縛りがあった。すぐにできたグループも、なかなかできず右往左往するグループもあった。東京開催のため必然だが、東京出身者がけっこう残った。「早々と組めた人はホッとしたでしょ。悪気はないけど、遅れてる人たちのことはあまり気にしませんでした。じつ

はこれが南北問題なんです」。実にわかりやすい体感だった。条件を緩めて、全グループが完成。1人1分でふるさと自慢をすることに。人の話を聞く姿勢を示すために、笑顔、頷き、話し合った後の拍手はいいですね、とフォロウも。

### ■ 宇宙から異形の怪人がやってくる

続いているワークは、「巨大なB星人が地球にやってきた。地球防衛軍であるあなた



5人グループで議論



次々と議論の設定を出す武田教授

2016年12月4日 東京大学 福武ホール

講師：武田信子 武蔵大学人文学部教授／臨床心理士

東京大学大学院教育学研究科博士課程修了／元トロント大学及びアムステルダム自由大学客員教授。専門は、臨床心理学、教師教育学、子ども支援専門職の人材育成。全国でワークショップ、講演など多数。FBグループページ「遊ぶ・学ぶ・育つ」「教師教育学研究会」「だっこおんぶを語る会」等で、子どもの育ちや教育に関する情報を広く提供している。

ければ地球侵略の意志はないとしたら。スーパーヒーローを呼んで3分間で退治してもらって済む話だろうか。容姿や言葉が違う人たちが隣にやってくる。日常の中で同じようなことはないだろうか。原発事故の福島から避難してきた人をどこまで受け入れられるのか？ ホームレスの人が地域に増えたら？ 知らない他人のためにワークシェアリングはできるのか？ ある調査では、外国人が近所に増えることに抵抗感があると答えた日本人は42%だそう。さてどうするとまた議論。

### ■ カナダの移民政策と福島の母親に学ぶ

カナダでは2016年に2万5千人のシリア難民を受け入れた。トルドー首相は前年秋、それを公約に掲げ当選し世界から注目された。カナダはもともと移民の国で、トルドーは「移民は労働力、人財、多様性をもたらす新たなカナダ人」と訴えた。国民の意見も、国を強くするために助けたいとする指示派と、安全とコストが見合わないと考える反対派に二分されたという。そうした両方の考え方や経緯が、現在カナダの小学校の社会科教材になっている。

この日は、福島県の母親たちが利用者からスタッフになっていく過程で使われた『実践コミュニケーション』（学文社）のレジュメを使って、コミュニケーションに必要な理論とスキルが紹介された他、最後に一般市民が多元的共生を目指していく「日本コミュニケーション七輪学会」の試みも紹介された。